

## 第58回 日光東往還:天王前BST～諏訪橋BST

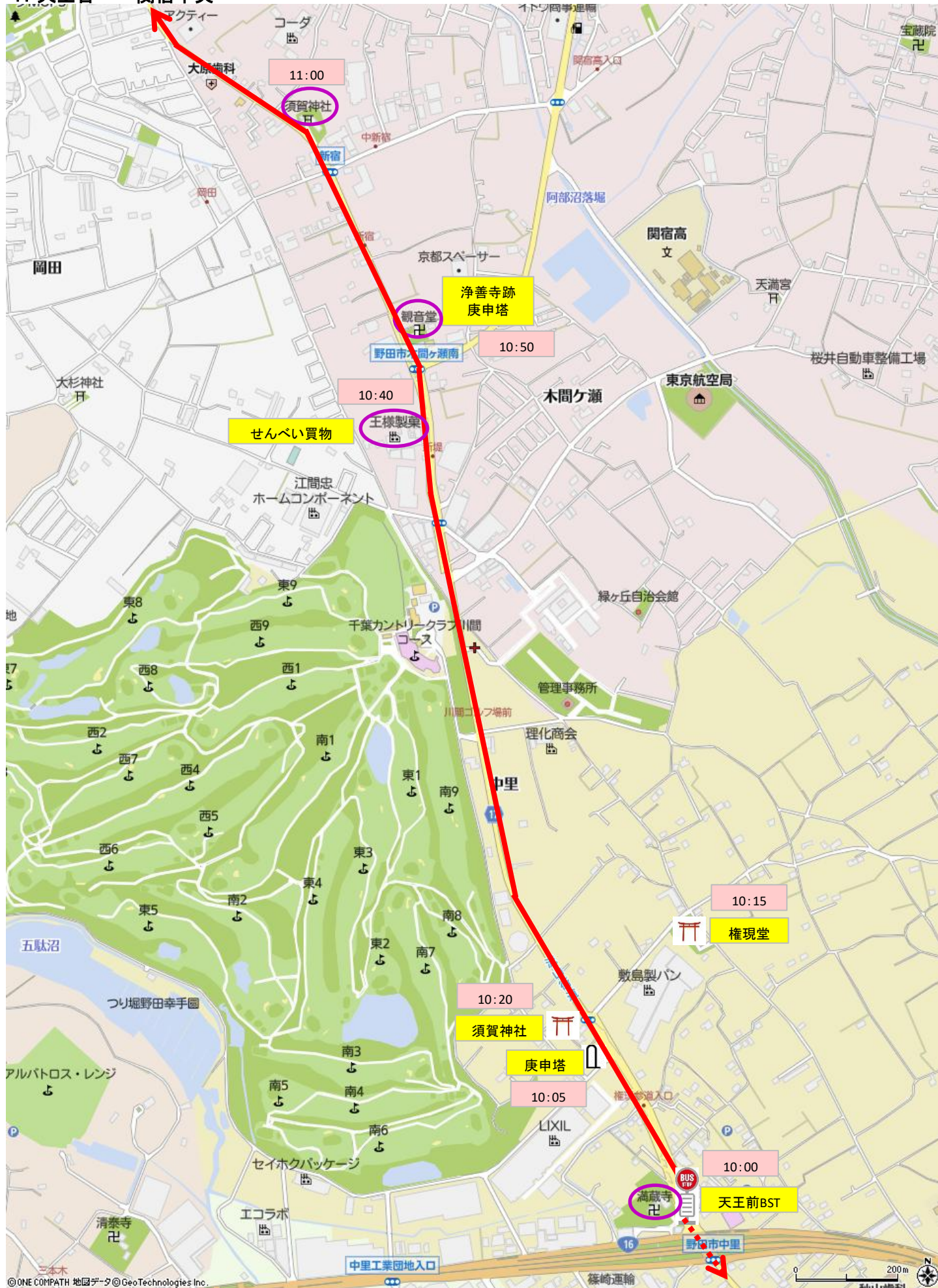
- 日時: 令和7年9月24日(水) 予備日: 令和7年9月25日(木)
- 集合: 東武野田線 川間駅北口朝日バス 09時53分発(各方面からの到着時間下記参照)  
 ①春日部方面から 春日部発:9時34分発⇒川間着:9時45分着  
 ②おおたかの森方面から おおたかの森発:9時13分発⇒川間着:9時39分着
- 持参: 弁当、飲み物、敷物、雨具、帽子、氷水(夏季)、タオル、着替、保険証、常備薬、各自準備品
- 予定行程: ・東武野田線 川間駅北口バス停 09時53分発⇒天王前BST 09時58分着  
 ・天王前BST～諏訪橋BST 8.1Km  
 ・当日中止の場合は05時～06時頃に一斉メールします。  
 ・各自体調により参加場所、リタイヤ場所等自由です
- 連絡: 清水携帯 090-3472-2171  
 (携帯) ts2419-477ts@docomo.ne.jp (PC) shimizu201500@arion.ocn.ne.jp
- 参加:(敬称略)
- 集合場所案内図  
 ・下記のとおり(出展:東武鉄道) ・トイレは駅階段下にあります



8. 昼食・飲料情報  
 ・必ず事前購入して下さい。  
 ・昼食は上羽貫公園です
9. 見どころ  
 ・街道沿いの庚申塔、神社仏閣、関根名人記念館(野田市:火曜定休日)
10. 行程図  
 ・別紙のとおり

# 1. 天王台

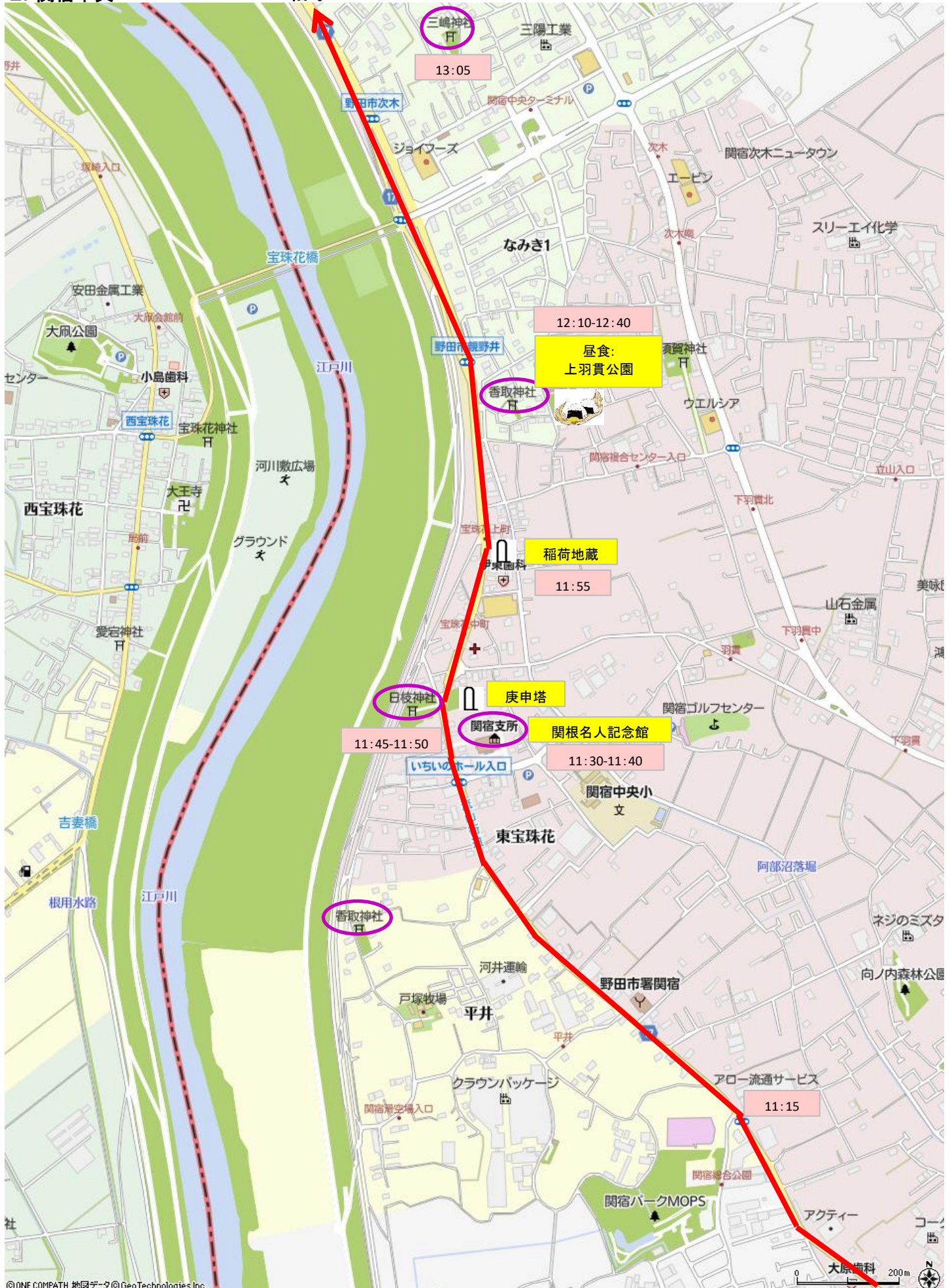
## 関宿中央





## 2. 関宿中央

柏寺





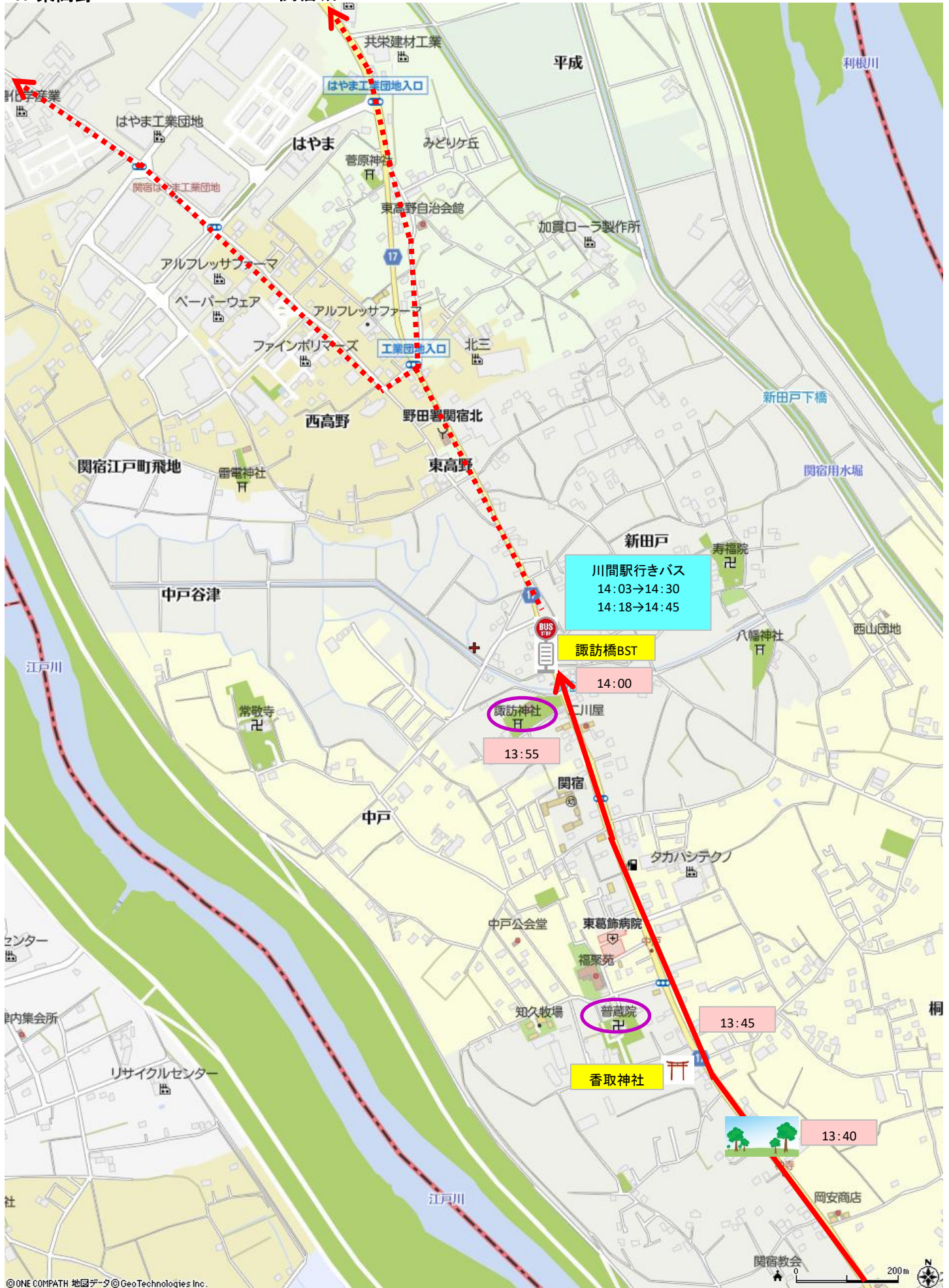
### 3. 柏寺 至 東高野





#### 4. 東高野

関宿城





# 関根金次郎

ページ ノート

閲覧 編集 履歴を表示 ツール

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

**関根 金次郎**（せきね きんじろう、1868年4月23日〈慶応4年4月1日） - 1946年〈昭和21年〉3月12日）は、明治から昭和初期の将棋棋士、**十三世名人**。本来の表記は**関根金次郎**。八代伊藤宗印及び十二代大橋宗金門下。将棋連盟や実力名人制を創始した。「近代将棋の父」とも称される<sup>[1]</sup>。

下総国葛飾郡東宝珠花村（現在の千葉県野田市東宝珠花）の生まれ。

## 昇段履歴

[編集]

- 1883年（明治16年） :二段
- 1888年（明治21年）頃:三段
- 1891年（明治24年） :四段
- 1895年（明治28年） :五段
- 1897年（明治30年） :六段
- 1905年（明治38年） :八段準名人
- 1921年（大正10年） :名人襲位（十三世名人）
- 1938年（昭和13年） :名人退位（1938年2月11日）
- 1946年（昭和21年） :死去（享年77）

## 生涯

[編集]

東宝珠花村で農業と灸点業を営む関根積次郎・たみの次男として生まれる<sup>[2]</sup>。隣村岡田村の寺子屋に通わせられるが、途中、将棋を指してばかりのため、やめさせられてしまう<sup>[3]</sup>。次に学校に通わされると、学校では将棋好きの校長先生と指し、村では老人らと指し、一日ごとに強くなる実感を得る<sup>[3]</sup>。ついには、あまりの強さに村中で相手がいなくなり、宝珠花小僧の異名で呼ばれるようになった。学校に行くふりをして弁当持参で遠くの村にも遠征した<sup>[3]</sup>。その後、親によって学校に行くのをやめさせられ、奉公に出されるも、将棋を指してばかりで1週間 - 10日ほどで追い出され、奉公先を転々とする<sup>[3]</sup>。

11歳の春、将棋指しを志して上京し、のちの十一世名人伊藤宗印（当時は名人に襲位前の八段）の門戸をたたき、四枚落ちで指してもらう<sup>[3]</sup>。いったん郷里が恋しくなり帰郷した後、再び伊藤を訪れたところ、しばらく東京から離れて将棋遊歴（修行の旅）に出ることを勧められ、旅に出る<sup>[3]</sup>。この旅には数々のエピソードがある（後述）。

その後、1883年（明治16年）に二段、20歳で三段、1891年（明治24年）に四段<sup>[4]</sup>。明治24年大阪で小林東白斎八段と角落戦でやぶれて発奮<sup>[要出典]</sup>し、また、四国、中国、九州と遊歴したのち（関根自身は将棋の勉強のために、全国を三巡したことがあるとのちに言っている<sup>[5]</sup>）大阪でふたたび対戦し勝利をおさめた。

1893年（明治26年）に師匠の十一世名人伊藤宗印が死去し、家元・伊藤家が断絶すると、名人位は空位となる（大橋分家は既に断絶しており、大橋本家の宗金は棋力が低かった）。

1895年（明治28年）五段、1897年（明治30年）六段。

1898年（明治31年）、政界などの後押しを受けた小野五平が家元を継ぐことなく十二世名人を襲位。その名人披露の招待状が来なかったことに怒った関根は、小野に挑戦状を送るが、芳川顕正らが間に立ち、和解<sup>[3]</sup>。のちに関根は「生涯の一大過失」と反省している<sup>[3]</sup>。

この記事の項目名には以下のような表記揺れがあります。

関根金次郎  
関根金次郎

### 関根金次郎 十三世名人



関根金次郎

|              |   |
|--------------|---|
| <b>名前</b>    | 関根金次郎   |
| <b>生年月日</b>  | 1868年4月23日  |
| <b>没年月日</b>  | 1946年3月12日（77歳没）  |
| <b>引退年月日</b> | 1938年2月11日（69歳=名人退位）                                    |
| <b>出身地</b>   | 下総国葛飾郡東宝珠花村（現・千葉県野田市東宝珠花）                               |
| <b>所属</b>    | 将棋同盟会<br>→将棋同盟社<br>→東京将棋連盟<br>→日本将棋連盟（東京）<br>→将棋大成会（関東） |
| <b>師匠</b>    | 八代伊藤宗印十一世名人、十二代大橋宗金                                     |

|           |  |
|-----------|--|
| <b>弟子</b> | 土居市太郎、金易二郎、花田長太郎、小泉雅信、木村義雄、渡辺東一、福井資明、五十嵐豊一 |
|-----------|--|

|           |       |
|-----------|-------|
| <b>段位</b> | 十三世名人 |
|-----------|-------|

2020年8月28日現在

テンプレートを表示

後半はWikipediaを参照願います。